

第23回委員会会議結果概要(案)

開催概要	
日時	平成20年11月5日(水) 18時00分～19時50分
場所	モリシアホール 多目的ホール
参加者数	40名
出席委員	15名(遠藤茂勝、工藤盛徳、倉阪秀史、榊山勉、及川七之助、 澤田洋一、竹川未喜男、歌代素克、後藤隆、佐々木洋晁、 松崎利光、田草川信慈、下原慶啓、増岡洋一、鯉淵彰) : 委員長
結果要旨	
<p>議題</p> <p>第22回委員会の開催結果概要</p> <p>資料1により確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑なし。 <p>平成21年度実施計画(案)</p> <p>報告事項(1)「評価委員会からの意見」と併せて、資料2により事務局から説明があり、質疑応答および意見交換が行われた。</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <p>【工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑なし。 <p>【モニタリング調査項目】</p> <p>< 後藤委員 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・波浪、流況に関する調査の費用はどの程度か。 ・特有の地形のつくられ方を推定できるような状況になるのか、メカニズムは整理できているのか。 <p>事務局回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回あたり400万円程度、年間800万円程度である。 ・外海の観測点のデータから、ある程度の推定はできると考える。 <p>< 榊山委員 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京灯標と千葉港波浪観測塔とではデータ数が大分違うので、それを考慮せず、相関係数の大きさだけで議論するのはちょっと無理があると思う。でも、費用のことを考えると実施しないのもやむを得ない。もし、何らかの異常なイベントがあった場合には、外力を推定できるだろうということで一応納得した。 	

< 遠藤委員長 >

- ・どの委員会ということではなく、県が三番瀬全体として、波浪、流況を長期的に調査していくことが必要である。
- ・三番瀬の関連で幾つかのデータがあるようだが、一元化管理されていないので、データベース的なものを確立していく必要がある。

< 竹川委員 >

- ・冬季調査を実施しない場合、自然環境調査など他の調査と連携し、うまくカバーできるとよい。

< 工藤委員 >

- ・波浪、流況の調査を実施しないのは予算の都合もあるのでよいが、東京灯標との相関が高いから実施しないというのは若干筋が通らないような気がする。プロット数が非常に少ない。千葉港波浪観測塔のデータについては、もっと丁寧に調べればいい値が出てくる気がする。もっと確実にこういう換算をすればよいというものをつくっておかないと、安心して観測をやめられない。

< 松崎委員 >

- ・猫実川が流れ込んだ沖合の方の砂地について聞きたい。地形変化により今はなくなっているのではないか。

< 澤田委員 >

- ・砂地はある。最近はどんどん東の方に延びて大きくなっている。地形変化はある。

< 松崎委員 >

- ・無い袖は振れない。モニタリング調査の変更はこれでしょうがない。

< 澤田委員 >

- ・東京灯標と千葉港波浪観測塔から塩浜の波を予測するには、西風のデータが少ない。北西の風の時のデータも取ったほうがよい。

< 遠藤委員長 >

- ・波浪、流況を推測するには、もう少し精度をよくする方法を検討する余地がある。
- ・三番瀬の再生を長いスパンでモニタリングするために、調査を三番瀬全体で行っていくべき旨、当委員会の意見として提案していきたい。

< 後藤委員 >

- ・三番瀬全体の地形変化は、当委員会の場で議論することではない。護岸検討委員会のデータを、今後三番瀬全体の中でどのように生かすのか、評価委員会で検討してほしい旨、メモのようなものを委員長から再生会議へきちんと出してほしい。

【緑化試験・砂つけ試験】

< 後藤委員 >

- ・緑化試験と砂つけ試験のモニタリング調査も、公開で実施してほしい。
- ・砂つけ試験は皆で眺めていくと楽しいと思う。

< 工藤委員 >

- ・砂つけ試験の対象が非常に狭い。狭いところで生物採集をしてしまうと後がなくなってしまう場合がある。十分配慮してほしい。

< 及川委員 >

- ・流出防止工の高さは、どのくらいになる予定か。

事務局回答

- ・ネットの上でA P + 1.0m程度である。

< 榊山委員 >

- ・砂がもし動いたとしても、浮遊した部分はしようがないが体積的には流出防止工の中で収まるということで、この高さになっているのか。

事務局回答

- ・ボリューム的には、砂が外へ流れないような高さにしているが、粒径の細かい部分については、波によって運ばれていくことも考えられる。

< 澤田委員 >

- ・春から夏にかけてはアサリ採りの人達がかかり入っていくので、生物調査を行うのであれば人が入れないように一応管理しないと正確な調査はできない。

< 及川委員 >

- ・工事を実施している時は下りないが、実施していない時は入っていく。よっぽどがっちりしないと、何も結果が出ないこともある。

事務局回答

- ・看板を立てるなどして対応したい。

【その他】

< 田草川委員 >

- ・事業費が前年度よりも減っている気がしたが、どうなのか。
- ・平成22年度に完成するのか。

事務局回答

- ・事業費については、国へ3億円を予算要求している。完成年度については、委員会の方へ相談しなくてはいけない部分もあるが、平成22年度を目標に進めているところである。

< 田草川委員 >

- ・平成22年度に完成するように事業を早めにしてほしいのが、市川市の要望である。

【まとめ】

- ・平成21年度工事およびモニタリング調査項目は、事務局案で実施することで合意された。なお、波浪、流況の推測に関しては、もう少し検討を加えることとなった。砂つけ試験についても、注意事項が提示され合意された。

工事2年後の検証・評価

資料3により事務局から説明があり、質疑応答および意見交換が行われた。

[主な意見及び対応]

【防護】

< 後藤委員 >

- ・グラフにより、防護の指標の達成状況が非常にわかりやすくなった。

【環境】

< 後藤委員 >

- ・海底地形の変化について、侵食傾向を少し注意してみていった方がよい。

【景観・親水性】

< 工藤委員 >

- ・マザーゾーンの位置についてはどうなったのか。

< 後藤委員 >

- ・前委員会で、あまりゾーン名を付けず、1期、2期などのような分け方でもいいのではないかという話があった。今から議論しておいた方がよい。

< 竹川委員 >

- ・大方の意見は、先入観を持つようになっては困るという意向で大体落ち着いたように記憶している。

< 遠藤委員長 >

- ・名称を付ける場合は、事務局の方で配慮をお願いしたい。

その他

< 事務局 >

- ・バリエーションの検討を進めるため、勉強会を開催する予定である。

傍聴者からの意見

- ・冬季の生物調査は継続すべきである。評価委員会で最低5年は調査するものと指摘されている。わずか2年でやめてしまうのは、評価委員会の指摘から外れると思う。
- ・2年後の検証・評価に関して、“石積護岸がハビタットとして機能しつつある”とあるが、この資料の段階では“生息場として利用されている”というくらいしか表現できないのではないかと思う。